

令和2年度普及活動外部評価 報告書

令和3年2月
長野県農政部農業技術課

県下10か所の農業農村支援センター（以下、支援センター）では、「しあわせ信州創造プラン2.0」及び「第3期長野県食と農業農村振興計画」に基づき、長野県農業と地域の発展を目指して、農業の生産性や収益性を向上させるための技術指導、担い手の確保、育成などの業務を行っています。これらの業務を効果的かつ効率的に展開するため、県では支援センターの活動について、外部からの幅広い視点で客観的な評価を行い、その結果を今後の活動に活かしています。

本年度は様々な分野で活躍される5名に依頼し、佐久、諏訪、長野、北信の4支援センターを対象に外部評価を実施しました。

今後、外部有識者から提言いただいたご意見等を、県下全ての支援センターの今後の業務に反映させ、目標の達成に向けて活動の充実を図っていきます。

1 外部有識者

所属	役職	氏名
信州大学農学部	教授	春日 重光
J A全農長野生産振興部	部長	竜野 竜
中棚荘	女将	富岡 洋子
有限会社宮城商店	専務取締役	宮城 恵美子
株式会社ベジアーツ	代表取締役社長	山本 裕之

2 開催日時、評価対象等

支援センター	実施日	説明事項・評価課題		
		共通	重点課題	特徴的な普及活動
佐久	9月3日	地域の農業及び普及活動の概要	あぶらな科野菜の根こぶ病対策の再構築	日本一の夏秋葉洋菜産地における新品目（夏秋いちご）導入への挑戦
諏訪	9月15日		安定生産できるブロッコリー産地の構築	難防除病虫害対策
長野	10月20日		高品質・早期多収技術の短期習得講座による果樹担い手層の強化育成	就農相談の充実
北信	10月15日		アスパラガス安定生産へ向けた取組	北信州農業道場～地域が一体的に取組んだ担い手育成～

3 支援センター重点活動課題の総合評価

支援センター	課題名	総合評価*
佐久	あぶらな科野菜の根こぶ病対策の再構築	4.5
諏訪	安定生産できるブロッコリー産地の構築	4.3
長野	高品質・早期多収技術の短期習得講座による果樹担い手層の強化育成	4.0
北信	アスパラガス安定生産へ向けた取組	4.0

※ 総合評価は、出席外部有識者の平均値

[評価基準と判定区分]

- 5：目標以上の成果が認められる。
- 4：目標どおりの成果が認められる。
- 3：活動は十分に認められるが、成果はやや不十分。更なる活動展開を期待したい。
- 2：成果が認められないが、活動展開の糸口は見えている。
- 1：活動が不十分で成果が認められない。

■ 佐久農業農村支援センター

【 あぶらな科野菜の根こぶ病対策の再構築 】

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
生産者の希望の光になるような数値設定が必要では？	今回の課題の成果目標（数値）については、課題解決を進めるために、地元 JA 等と協議の上、普及活動目標として設定したものです。 今後も、生産者に寄り添い、農業者各人及び生産組織等の技術レベルを見極める中で、達成可能な数値目標の設定を行い、技術レベル向上の指導に努めてまいります。
新規就農者にとっても信頼されている普及指導員の姿や人柄に好感が持てた。	新規就農者に対しては、日頃から個別巡回の頻度を多くするなど、寄り添った支援を心掛けております。 今後も、安定的な新規就農者の確保・育成に向け、生産者の意見に耳を傾け、伴に課題解決を進めながら、早期の経営安定につながるよう普及活動を進めてまいります。
なぜ、根こぶ病になるのかを根本的に考える機会につながるテーマの設定はいいと思った。レタスだけに頼らない方がよいと思っていたので、よかった。	今後も、佐久地域の主要品目である葉物野菜について、JA 等生産者団体と課題を共有しながら、継続的な産地の維持・発展に寄与できるよう普及活動を進めてまいります。
薬剤に依存し過ぎず、総合的に解決しようとしている点がよいと思った。	今後も、健康的な農地を維持していくため、薬剤のみの防除に頼らない総合的な防除（IPM）の普及・啓発に努めてまいります。
生産者の意向を尊重しながら、前向きにスタートされているのがよい。	今後も、生産者に寄り添い、指導対象者・生産者団体等の意向を的確に把握・尊重しながら、課題解決に向けた自主的な取り組みが安定的に行われるよう、普及活動を進めてまいります。

【 支援センター総括所見 】

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
買い手の人のことを思って、環境にやさしい農作物の生産指導をお願いしたい	今後とも、消費者の皆様に佐久地域産農産物の価値を理解していただき、選んで購入される「エンカル消費」が促進されるよう、「環境にやさしい農産物認証制度」等を始めとした付加価値の高い農産物の生産指導・制度 PR に努めてまいります。
川上村というある意味恵まれない気候を逆手にとって戦略を立てる気質が、夏秋いちごの導入につながっていることを知り、素晴らしいと思った。また、一つの野菜に頼るのはリスクが伴いがちなので、夏秋イチゴに着目したのは素晴らしいと思った。	今回の葉野菜産地に対する夏秋イチゴの導入事例をひとつの成功事例と捉え、単品目に特化する経営を進めている生産者・産地に対し、複合経営によるリスク分散や労力分散等のメリットを周知し、経営安定・発展の一考としていただけるよう普及活動を進めてまいります。

<p>土地や人に負荷をかけ過ぎない農業が重要であることを再確認できた。</p>	<p>農業農村の維持・発展に向け、継続的に農産物の生産が行えるよう、環境にやさしい農業の推進や労働力補完システムの構築・スマート農業の推進等を関係機関とともに進めてまいります。</p>
<p>女性の普及指導員の意見も聞きたかった。</p>	<p>日頃の普及活動では女性職員も幅広く参画し、その意見も反映しながら組織的に活動を進めているところですので、今後、普及成果発表の場面においては、女性職員・若手職員が積極的に発表できる機会づくりに努めてまいります。</p>

■ 諏訪農業農村支援センター

【 安定生産できるブロッコリー産地の構築 】

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
地域適性があり、消費動向も伸びているブロッコリーを重点化しているのは効果的である。	ブロッコリーを含め、管内の主要品目の振興・課題解決については、今後とも総合的な判断を行い、優先度の高い課題を選定し支援を行ってまいります。
輪作体系の検討も含めた土壌管理方法を早急に改善すべきである。	アブラナ科野菜栽培における根こぶ病の発生は、連作するほ場や滞水しやすいほ場での被害が大きいため、今後も輪作体系や排水対策などの土壌管理方法について、試験場やJA等関係機関と連携して検討し、生産者に情報提供してまいります。
新規就農者が栽培初年度に根こぶ病激発に遭遇するのは問題である。初年度はある程度、稼げるようなビギナーズラック的な状況も必要であると思われる。	新規就農者が優良農地を確保できる仕組みを就農支援する関係機関と検討するとともに、所有者等に前作の耕種概要を確認し、栽培初年度の課題について整理してまいります。
ブロッコリー就農モデル資料作成は、就農へのプロセスが分かりやすくよい取組である。	今回の資料は、新規就農希望者に具体的にイメージできること、さらに、関係機関が共有して活用できることを目指して作成しました。今後も、就農相談に丁寧に対応するとともに、わかりやすい資料の作成に努めます。
ベテラン栽培者と新規就農者の橋渡しは適切な対応である。	引き続き、当支援センターが主催する新規就農者フォローアップ講座などを通じて、ベテラン栽培者と新規就農者の橋渡しや新規就農者同士の情報交換などを行ってまいります。
新規就農者の就農時から寄り添い、ともに課題を見つけ、解決に向けた支援を行っている。PDCAも出来ていると感じた。	引き続き、新規就農者に対して重点的に活動し、個々のプロジェクト活動につながるような課題解決支援を行ってまいります。
根こぶ病対策は様々な方法を組合せて適切に行われている。	根こぶ病対策は、試験場や他の産地の事例も参考に輪作、排水対策、農薬の効果確認等の検討を行ってきました。今後も、指導会や現地検討会、個別対応により事例ごとの対策を産地で広く共有し、生産者に理解してもらえよう努めます。
地上部病害虫早見表は画像が分かりやすく、スマホやタブレットでも活用しやすい。全県的に活用できるようPRをお願いしたい。	ブロッコリーの病害虫早見表は、当センターのホームページに掲載し、どなたにも活用していただけるようになっています。 今後も公用タブレット端末を始めとした情報機器の一層の活用により、わかりやすい指導・助言に心がけます。

市町村やJAとの横連携は取れている。	<p>市町村やJA等で構成する就農支援連絡会での連携により就農相談から就農まで関係機関全体で支援を行っています。</p> <p>今後も諏訪ブランドの産地が維持できるように就農希望者への支援を行ってまいります。</p>
--------------------	--

【 支援センター総括所見 】

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
センターの活動に関する全体像（普及活動の本質である「人づくり、考える農業者の育成」）が見えにくかった。	<p>緊急課題の重要害虫対策について内容説明させていただいたため、他の一般課題の説明が不十分でした。</p> <p>今後も、第3期長野県食と農業農村振興計画の重点取組を基本とした普及計画の作成・点検・評価を行うことで、農業者が抱える課題等を具体化させていきます。さらに、この課題を農業者と共有化することで、農業者自らが考えることにより解決できるよう取り組んでいきます。</p>
重点課題に特化した取組ができています。	<p>ブロッコリーの重点課題については、新規栽培者の育成、受け入れ体制の整備、病害虫対策など幅広く成果が得られました。</p> <p>令和2年度からは新たな重点課題「諏訪ブランド農産物を支える担い手の育成」を設定し、諏訪地区の主要な野菜花きの新規就農者を対象にした3か年の計画で取り組んでいきます。</p>
グローバル化が進む中で、重要病害虫がいつ発生しても不思議ではない。そのような事態が発生した場合、今回の事例のように、各組織が連携し合って迅速に対応してほしい。	<p>今回の重要害虫対策については、方針をいかに生産者に理解していただき、実行していただくことが産地の継続に必要であるということに腐心して現場の活動を行いました。</p> <p>今後も産地として緊急かつ重要な課題については、関係機関等と連携しつつ、生産者の立場に立った支援を行うよう心がけます。</p>

■ 長野農業農村支援センター

【 高品質・早期多収技術の短期習得講座による果樹担い手層の強化育成 】

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
Facebook の開設により、情報の伝達に取り組んでいる点は特に評価できる。	Facebook については、今後も支援センター主催の講習会・セミナー受講生等に幅広く情報提供し、技術習得等のツールとして活用してまいります。また、情報発信の媒体としての有効活用について検討してまいります。
習熟度の確認や把握の取組は評価できる。	習熟度の確認や把握方法については、今後の支援センター主催の講習会・セミナー等においても活用を検討してまいります。また、習熟度の状況に応じて、個別にフォローアップを行い確実に技術習得等が図れるよう支援してまいります。
事業承継に関する問題が増加する中で、本課題は適切である。	後継者不足に伴い、事業承継は今後ますます重要になる課題と認識しています。事業承継が円滑に行われるよう、対象農業者に対して的確なサポートを行うとともに、里親研修制度等により就農希望者の確保・育成を図ってまいります。
成果（習熟度）の判定を、5～10年スパンで考えると確実に成果が表れるのではないかと。長期的視点で見守って欲しい。	短期習得講座受講生については、今後も個別巡回等により継続的に支援を行い、技術定着や新技術導入の拡大を支援してまいります。
農業者と支援センターのコミュニケーションが十分に取れていた。信頼関係の構築も十分であった。	今後とも、より多くの農業者ときめ細かなコミュニケーションを図り、信頼関係の構築を進めてまいります。
耕作放棄地の活用も視野に入れて欲しい。活用の際には、その土地にあった品目選定の支援を合わせてお願いしたい。	耕作放棄地の活用にあたっては、市町村など関係機関・団体と連携しながら、土壌分析や農地の立地状況を把握し、適切な作物選定と導入及び栽培技術の指導・助言に取り組んでまいります。
高度な目標ではなく、それぞれの農業者が希望を持てる目標設定が適切である。	個々の農業者が自己の技術レベルや経営状況に応じた目標を設定し、目標が達成できるよう普及活動を進めてまいります。
一方的な指導ではなく、個々に応じてフィードバックさせている点が良い。	今後もセミナーや講習会等において、一方的に説明するのではなく、双方向のやり取りができるよう工夫するとともに、個々の農家に応じたフィードバック（振り返り）を行う個別指導に今後とも取り組んでまいります。

【 支援センター総括所見 】

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
新規就農に関する取組は、就農人数が成果として評価されてしまうが、就農後のアフターケアが重要であるので、長期的視点に基づいた取組をお願いしたい。	対象農業者に対して、就農後も個々の経営状況やニーズを把握し、必要な経営・技術支援、情報提供、仲間づくりなどを関係機関等と連携してきめ細かに継続して行ってまいります。
既に定着した新規就農者の率直な感想や意見をこれから就農する方々への支援に反映していただきたい。	新規就農者の率直な感想や意見は、就農希望者の誘致に重要であると認識しています。そのため、新規就農した方に里親になっていただき、研修生の気持ちがわかる、よりよい里親研修とすることで、失敗しない就農につなげてまいります。
公用のタブレットやスマートフォンなどの整備により、農業者とのコミュニケーションをより円滑にしたらどうか。	タブレット端末については、農業者への病害虫防除や栽培技術指導のコミュニケーションツールとして有効に活用し、迅速かつ効率的な普及活動を進めてまいります。
Facebook など SNS や ICT の活用は今後も継続をお願いするとともに、他の支援センターへの横展開もお願いしたい。	作業動画配信など Facebook 等の活用を継続するとともに、農業技術課と連携し、支援センターへの横展開を行い普及活動のスマート化に努めてまいります。
女性職員の活動の様子を知ることができてよかった。	現在、支援センター職員の2割が女性職員となっており、女性ならではの感性を活かして男性職員ではできないきめ細かな普及活動を展開しています。今後とも女性職員が活躍できる環境づくりを進めてまいります。

■ 北信農業農村支援センター

【 アスパラガス安定生産へ向けた取組 】

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
目標値（単収等）を明確に示しているよい。	普及活動を展開する中で、それぞれの項目に目標を設定することは重要と考えております。今後も現状を把握した上で、目標を設定して取組を進めてまいります。
講義内容が、初心者向けのものから最先端技術の導入試験まで幅広く適切である。	受講する農業者のレベルが多様であることから、対象者に合わせた指導内容を検討しております。 限られた職員でいかに多様な受講者に効果的な講義ができるかが課題ではありますが、今後も対象者が求める内容となるよう講義の充実に取り組んでまいります。
栽培者のレベルややる気に合わせた支援の大切さを感じた。	地域全体で栽培技術・品質の向上を図るためには、対象者のレベルに合わせた支援が重要と考えております。 今後も対象者に寄り添った支援となるよう取り組んでまいります。
アスパラガスを重点課題の対象品目としたことは重要である。	県内有数のアスパラガス産地である当地域には、市場等からの期待も大きいことから、産地の維持・発展のために重点課題として取組を行いました。 今後も産地のV字回復に弾みをつけたいと思います。また、今後の重点課題の品目選定にあたっては、消費者ニーズや流通関係者等の意向（意見）を聞きながら検討していくことが重要と考えています。
近年は集中豪雨が頻発しており、さらに排水対策を積極的に進めるべきである。	最近では台風による集中豪雨だけでなく、梅雨期の長雨、ゲリラ豪雨によっても病害が拡大する可能性があります。 排水対策については、JA等の関係機関と連携して積極的に進めてまいります。 また、今後新技術が開発されれば導入の可否について検討してまいります。
北信地域は、夏秋どりと施設化への取組を進めるため継続的な支援が必要である。	H30～R元までの3年間、重点課題として病害の抑止技術の開発と普及を展開してまいりました。 今後は、「柵板式高畝栽培」や「自動かん水システム」といった新しい技術の普及と合わせて雨よけ栽培の技術普及を図り、農業所得の向上を図ってまいります。

<p>他地域の成功事例を応用していることは素晴らしい。</p>	<p>地域の課題解決については、日ごろから専門技術員、試験場と連携して取組を進めております。今後も、関係機関と連携して課題解決に必要な情報を集めながら、地域の課題解決に向けて取り組んでまいります。</p> <p>また、スマート農業技術の開発が急速に進むことが見込まれることから、そういった技術開発の情報収集にも努めてまいります。</p>
<p>60歳を過ぎても、新たに農業に取組みやすい環境を整えることはよい。</p>	<p>定年帰農者、I・Uターン就農者(親元就農)が多い状況であり、そういった農業者を対象として、北信州農業道場等の取組を進めています。今後も多様な農業者を対象として、わかりやすい農業指導を進めてまいります。</p> <p>また、軽労化に向けて技術開発が進められている「アシストスーツ」などの導入も検討が必要と考えます。</p>
<p>仲間づくりが課題解決につながることを知った。横の関係づくりに取り組んでいることは素晴らしい。</p>	<p>農業者は自宅と農地を往復するだけになることが多く、悩みを分かち合ったり、悩みを相談する機会を求めているという声を聞きます。今後も農業者に寄り添い、横のつながりが強化できるよう取組を進めてまいります。</p> <p>また、with コロナの中、新しい交流の方法の検討も必要と考えています。</p>
<p>年齢や体力に応じた生産目標があってもよい。</p>	<p>現在は、地域で一律の目標設定としていますが、農業者によって経営規模等が異なることから、生産目標については、農業者に寄り添いつつ、レベルにあった生産目標となるよう取組を進めてまいります。</p>
<p>就労状態などに応じた兼業パターンが示されるとよい(リモートワークと農業の両立など)。</p>	<p>北信地域は、春～秋期の農業と冬期の観光業で働くことを就業パターンとしている農業者が存在している地域です。</p> <p>大変重要な助言をいただきましたので、今後は、こうした実情に合わせた提案が示せるよう商工観光課等の関係機関と連携して検討してまいります。</p>

【 支援センター総括所見 】

<p>外部有識者評価(意見、提案等含む)</p>	<p>今後の対応</p>
<p>センター全体の普及方針および活動とも大いに評価できる。</p>	<p>指導対象者・生産者団体等の意向を的確に把握・尊重しながら、農業者に寄り添いつつ、課題解決に向けた自主的な取り組みが安定的に行われるよう、今後もJAや市町村等の関係機関と連携して普及活動を進めてまいります。</p>

<p>(北信州農業道場の取組みのように) 多くの世代の農業者を巻き込んで、地域全体で支援できるような温かな取組を期待する。</p>	<p>今後も、JA をはじめとした生産者団体や市町村等関係機関と理念を共有し、連携を密にして、地域課題の把握に努めつつ、課題解決に向けた取組を進めてまいります。</p>
<p>産地振興と農業者個々の技術力向上の二つの側面を対象に、関係機関が連携して行うことは重要である。</p>	<p>北信地域の農業振興を図るために、地域全体を対象とした J A や市町村等と連携した取組と、農業者の経営安定・向上を目指した普及活動を展開しています。</p> <p>今後もこうした取組を展開するために、引き続き J A や市町村等の関係機関と連携して普及活動を進めてまいります。</p> <p>また、この 4 月から地域振興局の付置機関となったことから、振興局内の各課とも連携を強化し、産地振興を図ってまいります。</p>
<p>若い職員が熟慮しながら、行動力を持って熱心に活動している姿に感銘した。</p>	<p>新規就農者や経営安定・向上を目指す農業者を重点対象者とし、担当者を決めた上で、個別訪問、相談機会を増やす取組を進めています。</p> <p>今後も農業者の立場で考え、行動できるよう、O J T 研修等の取組を通して、若手職員の育成を進めてまいります。</p>
<p>地域の特長を生かして、官民一体となって結果を出しているのは素晴らしい。</p>	<p>今後も、農業者に寄り添い、指導対象者、生産者組織等の意向を的確に把握・尊重しながら、課題解決に向けた自主的な取組が安定的・継続的に行われるよう、J A や市町村等の関係機関と連携して普及活動を進めてまいります。</p>
<p>農業や地域に対する誇りを持って生きる人が多い地域であることに驚いた。多くの人に知ってもらう機会があるとよい。</p>	<p>当地域の魅力や農産物を多くの人に知っていただくことは大切なことだと思います。</p> <p>今後は、J A や市町村が行う P R に地域振興局内で連携して協力し、当地域の特徴や農産物、農業者等が多くの人に認知されるよう支援してまいります。</p>